

令和 4 年度小松市立日末小学校 学校評価 2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
ア 生 徒 指 導	いじめ・不登校の未然防止・早期発見・早期対応		・いじめアンケートの結果を1学期・2学期で比較すると、「いじめられている・いじめられていた」と回答した児童は微増したが、ふれあい週間で各担任が聞き取りを行い、2学期末までにほぼ解消できた。「学校が楽しい」と答えた児童が100%だったことから、重大事案に発展しそうな案件は、ないと考えている。今後もアンケートとふれあい週間を続けていき、児童に寄り添う生徒指導を進める。 ・2学期末に「メディア依存度アンケート」を4～6年に行った。数名3段階で最も依存度が高いと言われる数値になったが、その結果をふまえ、これからのメディアとの付き合い方を考えることができた。
	・1か月に1回以上児童理解の会を開き、全職員で児童の様子についての情報交換を行い共通理解を図る。 ・児童の実態に応じた「いじめアンケート」を作成し、学期に1回実施する。 ・いじめアンケートの実施に合わせて、学級担任が児童の面談を行う。メディア利用に関するトラブル増加に合わせて、メディア指導を学期に1回行う。	・いじめアンケートの結果を用いた児童理解の会やいじめ対応アドバイザー定期訪問を開催し、児童の対応や継続的な声掛けをすることを共通理解した。 ・eネットキャラバンの取り組みに参加し、インターネットの安心安全な使い方を指導した。	
イ 特 別 活 動	学級目標を軸にしたよりよい学級・学校づくり		・「学級目標を意識して活動したか」への回答は中間評価の時より微減しており、学級目標への教師や児童の意識を再確認する必要がある。 ・2学期末に、教師側で目指す集団の姿を再検討し、学級目標達成に向けて、各学年でも学級会を行うよう共通理解した。
	・自分たちの目指す姿を学級目標として掲げ、目指す姿に近づいているかを毎学期末に各学級で振り返る。 ・各行事の際にはそのねらいを児童と共有する。そのうえで、自分たちの学級目標にある姿に近づくための具体的な行動目標やその行事の中でできることを学級で話し合い、実践し、行事の後に検証する。 ・年間を通してたてわり活動を行い、学年をこえた関わりを通して、学年に応じた児童の役割の自覚を促す。	・学期末に各学級で学級目標の達成度について話し合う機会を設けた。その結果を職員会議で共通理解し、目指す児童の姿を再検討した。 ・考える目標をできるだけ行動目標にしたところ、目標をイメージしやすくなったように思う。	
ウ 道 徳 教 育	道徳教育の向上		・校内研修を行い、道徳の授業づくりの要となる構想シートについて理解を深めることができた。 ・2学期には、道徳の授業を互いに見合う機会を設け、道徳の授業研究を実施することができた。 ・課題としては、日々の限られた教材研究の時間内で、効率よくねらいに迫る授業を練ることができ、日末小学校独自の構想シートができることよい。
	・校内研修を行い、児童が物事を多面的・多角的に考え、人間理解や他者理解を深め、更に自分で考えを深められるような発問や問い返しを吟味する。 ・年間1回、重点項目の授業構想シートを作成し、授業を行う。	全ての教員が一学期、学校重点項目の授業を行い、発問の工夫をする等の道徳授業の充実を図ることができた。夏季休業中には、道徳推進教師が県教育研修センター主催の道徳教育推進教師研修で学んだことを校内に伝達する校内研修を実施予定である。またその研修で2学期以降に行う重点項目の授業について構想シートを作成し、道徳授業の充実に向けた準備を行う。	
エ 特 別 支 援 教 育	一人一人を大切にした教育の推進		・学級担任や教科担任は、授業交流や研究授業などを通して、視覚化・焦点化・見通しを持たせる手立てを学び、実践してき。 ・気になる児童について日々情報交換を行い、児童理解の会や、特別支援校内委員会につなげることができた。また、保護者や専門機関と連携し、児童の困難さについて情報を共有したり、手立てを考えたりして支援へつなげることができた。
	・学級担任や教科担任は、視覚化・焦点化・見通しを持たせる手立てを授業づくりや学級づくりの際に意図的に取り入れる。 ・児童理解の会や特別支援校内委員会を定期的に開催して、専門相談員等の専門機関との連携を図りながら、生活や学習上の困難を少しでも改善できるように取り組む。	・学級担任や教科担任は、単元のはじめに単元の流れを示し掲示するなど、見通しをもたせる手立てをとることができた。 ・個別の特別支援校内委員会を開き、学級担任の細やかな児童の見取りや、専門機関や保護者との連携をもとに児童に合った支援を話し合い、共通理解を図った。 ・SCや心の相談員とも協力し、情報を共有することで、児童の困り感に早く気づき、少しでも改善できるよう支援をしていく。	
オ 読 書 教 育	読書量を増やす		・2学期の目標達成率は、79%であった。年間の目標冊数に届くように司書や担任と協力して声掛けをしたり、図書委員会活動を考えたりする。 ・こちらから読む本を決めて教室に本を置くのではなく、各教科に関連のある本を紹介したり、準備したりして意欲的に本を読めるようにしていく。
	・個人が記録ファイルを持ち、年間の目標冊数のめあてをもとに自分で学期ごとの目標冊数を決める。読書への意欲を高められるように、個別に励ましたり、図書委員会の活動の一つとしてたりして、声をかけていく。学校で決めた目標冊数の達成率が80%以上となるようにする。 ・各教科の学習の中で、教科書に掲載されている本や関連図書を紹介することで、読書の幅を広げる。読んだ本は読書名人カードに記録していく。	・図書委員の活動として本が3冊入ったシークレットブックの企画を委員会活動として取り入れたり、1週間に1回の目安でレイアウトを変えたりして読書量を増やす取り組みをした。夏休みの貸し出し冊数を増やしたこともあり、1学期の目標達成率は、81%であった。 ・2学期以降も司書が担任と協力して声掛けをしていく。	
カ 保 健 健 康 教 育	歯と口の健康づくりの充実		・いい歯の日の取組では、体育保健委員会で歯みがきソングを作成したり、歯みがきソングを流し全校に丁寧な歯みがきを呼び掛けたりすることができた。今後も取り組みを続け、いい歯の日をきっかけに歯を大切にする習慣をつけられるようにしていきたい。 ・2学期始め、2学期末に検診の受診状況についてアンケートをとり、受診の呼びかけを行った。3学期始めにも受診状況についてのアンケートをとり、今年度中に全児童の受診を促したい。
	・6～7月頃に、TTによる保健指導（特別活動）等において、歯・口の健康づくりの指導を計画的に行う。 ・毎月18日をいい歯の日とし、歯の健康に関心を持てるような取り組みを行う。 ・毎学期末に、検診の受診状況についてアンケートをとり、未受診の保護者には個人懇談で担任より呼び掛けてもらう。	・6月に至学年に歯科保健指導を実施することができた。特に、1年・56年児童は歯科衛生士による歯科指導を受講できたことで、歯みがきの重要性や歯の磨き方を知る良い機会となった。 ・毎月18日に歯と口に関する情報を放送で渡し、歯の健康に関心が持てるようにした。委員会では、全校児童のはみがきカレンダーに肯定的なコメントを記入し、掲示した。 ・学期末に検診の受診状況についてアンケートをとることはできたが、未受診の保護者に呼び掛けてもらうことはできなかった。2学期末にもアンケートをとり、未受診の保護者に呼び掛けてもらう。	
ケ グ ー ル 構 想	GIGAタブレットの活用推進		・職員会議後など、短い時間での校内研修を定期的に開催し、職員室掲示板での実践紹介をした。各学年の実態などを共有し、日々の活用を生かすことができた。 ・どの学年でも児童の実態に合わせて積極的に端末を活用している。定着状況についてのアンケートでは、全体で活用スキルの内容の7割以上が定着していることが分かった。 ・活用スキルのうち、取り組みが難しい内容もあったので、発達段階や学習内容に合わせて活用スキルの見直しをしていく必要がある。
	・授業、帯タイム等で、学年に応じたタブレット活用スキルを身に付けさせる。 ・校内研修等で、タブレット端末の活用について共有する。 ・学期ごとにメディアスキルの定着状況を確認する。	・タブレット活用スキルをアプリごとに具体化し、見通しをもって指導できるようにした。 ・タブレット端末の活用実践について、Teamsを使って気軽に交流できるようにした。2学期には発信の機会をふやしていきたい。 ・1学期、各担任に定着状況を確認するアンケートをとった。メディアスキルの内容の半数程度の定着がされていることが分かった。学年によって状況にばらつきがあるので、実践例を紹介するなどして、2学期以降に取り組んでもらう。	
ク 家 の 庭 ・ 携 地 域 と	郷土を愛する心の育成		・稲刈り、サツマイモ収穫、ダイコン収穫さらに地域の農家の方々の協力を得てダイコン抜き、次年度に向けてイチゴ苗植えと体験的な学びを実施することができた。宮本三郎についても2年生の町たんけん、6年生の卒業制作と学ぶ機会を通して、郷土の偉人を敬う心を育てることができた。
	・さつまいも・イチゴ・大根・米の栽培を通して、地域の方々との交流を大切にし、地域に根付いた体験的な学びを展開する。 ・地域の農業や人を調べ、発信する学習活動を通して地域や郷土に親しみ大切にする心を育てる。	地域の農家の方々の協力を得て、イチゴ栽培、収穫、サツマイモ苗植え、米の栽培を実施することができた。農家のかたへのインタビュー等を通して農業に関心を持ち取り組むことができた。2学期にはダイコン栽培、宮本三郎模写にも取り組み、さらに郷土について親しむ機会を作っていく。	

学校関係者評価	・いじめアンケートの結果を児童の面談や保護者との連携に生かしていることが良い。 ・タブレットの活用が進んでいる。正しい使い方を身に付け、子ども達の活用能力を伸ばしてほしい。 ・まだまだコロナ禍ではあるが、秋祭り、文化祭等、地域の行事も絶えないようにできる範囲で実施する予定である。これからも地域・学校と連携し取り組んでいきたい。 ・いじめがないようにこれからもしっかり取り組んでほしい。 ・先生方が一生懸命であるのがよい。少人数の学校で家庭的な雰囲気の中、一人ひとりを大切に教育を続けてほしい。
---------	---